

大豆育成系統及び品種の6月播と7月播の収量比較

異饒田和典・羽鹿 牧太・中澤 芳則(九州農業試験場)

Kazunori IGITA, Makita NAJKA and Yosinori NAKAZAWA : Performance Test of Soybean seeded in June and July

九州地域の大豆の単位面積当たりの収量は近年漸増の傾向はみられるものの最近5か年の平均で17.0kg/aで依然として低い水準にある。その原因の一つとして播種期の遅れがあげられる。九州地域の大豆の播種は梅雨明けを待って行うため、排水不良ですぐに耕起・播種作業ができないことが多い。また年によっては梅雨明けが遅れて適期の7月上旬～中旬に播種できず、7月下旬播となるため生育量が確保できなくなる。前作の麦の収穫が終わり本格的な梅雨に入る前の6月中旬に播種することが考えられるが、適品種の無いのが実状である。そこですでに育成された品種及び育成中の系統を6月中旬播して適品種・系統を選定するとともに慣行の7月中旬播との収量性の比較を行った。

1. 材料及び方法

供試品種：早生種4, 中生～晩生種4, 供試系統：早生1, 中生～晩生3。年次：1987～91年。播種期：6月15日(5か年平均), 7月12日(5か年平均)。栽植本数：早生品種・系統は両播種期とも11.1本/m², 中生～晩生品種・系統は6月播は5.5本/m², 7月播は11.1本/m²。施肥量はN:0.3～0.6, P₂O₅:1.0～2.0, K₂O:1.0～2.0kg/a。殺虫剤散布回数：約6回。

2. 結果及び考察

第1表に成熟期の早い順に品種と系統名を並べ、6月播と7月播の5か年間の平均収量, 最高収量及び年次変動を示した。6月播で平均収量が高い品種・系統は極早生のエンレイを除くと早生群に多く、九州106号, タマ

ホマレ, アキシロメ及びニシムスメは九州地域の主要品種であるフクユタカより多収であった。また中生でも九州99号のようにフクユタカより多収のものもあった。7月播では平均収量が最も高かったのはフクユタカであった。7月播では中生～晩生群が早生群に比べて多収となることが予想されたが、早生群の中にもフクユタカには及ばないもののニシムスメ及び九州106号のように比較的多収なものもあった。6月播と7月播の平均収量を比較すると、九州105号より早生の品種・系統では6月播の方が多収となった。7月播で多収となったのは晩生のアキヨシとアキセンゴクであった。5か年間の最高収量は6月播の九州106号, アキシロメ及びタマホマレが40kg/a以上を示し、慣行の7月播でのフクユタカの最高収量の33.8kg/aよりはるかに高くなった。年次変動は早生群では6月播が小さく、中生～晩生群では7月播で小さい傾向がみられた。以上のように九州地域の大豆作で慣行となっている中生種フクユタカの7月播に比べて早生品種・系統の6月播は5か年間の平均収量及び最高収量ではるかに高く、年次変動も小さく安定していた。この理由として6月播は7月播に比べて、気温及び日照条件にめぐまれていること、及び早生群の早播で最大の減収要因である害虫の被害を2週間に1度の防除で軽微におさえたことによる。中生～晩生群の6月播では栽植密度を低くしても倒伏し、収量は低く、不安定となる。したがって耐倒伏性が強く早播適応性の高い中生～晩生品種の育成がのぞまれる。

第1表 6月播と7月播の収量比較(1987～91年平均)

品 ま た 系 統 名	6 月 播			7 月 播			平均収量の差 6月播-7月播 kg/a
	平均収量 kg/a	最高収量 kg/a	年次変動 %	平均収量 kg/a	最高収量 kg/a	年次変動 %	
エンレイ	24.4	29.0	30	18.3	25.8	24	6.1
九州106号	30.5	41.2	24	24.2	38.9	35	6.3
ニシムスメ	28.1	37.0	19	24.7	34.3	24	3.4
タマホマレ	29.1	40.4	19	22.4	37.0	37	6.7
アキシロメ	28.2	40.7	31	23.8	38.2	36	4.4
トヨシロメ	24.2	31.6	39	22.3	30.1	28	1.9
九州96号	25.2	36.4	40	24.4	29.0	31	0.8
九州99号	29.9	39.8	30	25.0	30.7	20	4.9
フクユタカ	27.7	38.6	24	26.0	33.8	23	1.7
九州105号	27.9	37.3	27	24.2	32.8	24	3.7
アキヨシ	20.7	30.3	35	22.0	32.3	32	-1.3
アキセンゴク	22.2	34.5	53	24.2	35.7	40	-2.0

注) a) 年次変動は収量の年次にともなう標準偏差/平均収量。 b) 九州96号：アキセンゴク×久万大豆, 九州99号：アキセンゴク×銀白, 九州105号：境野在来×エンレイ, 九州106号：アキシロメ×エンレイ